読む得！在宅医療と介護の連携
～身近な事例から～ 第11回

―小規模多機能型居宅介護とは？―
病院職員との相談により、家庭的な環境で日常生活を送ることができたケース

一人暮らしの80代後半の女性が、脱水症状のため救急搬送され、そのまま入院となりました。数週間後、病状は回復しましたが、直前のことを忘れたり、時間や場所が分からなかったりするなど認知症の症状がみられ、一人暮らしを続けられるか不安がありました。

そこで、病院の「医療相談員」や「退院調整看護師」が、自宅近くにある小規模多機能型居宅介護事業所と連携して、在宅生活の復帰に向けた話し合いの場を持ちました。食事や水分摂取、安否確認の訪問が毎日入ることで一人暮らしでも安心して暮らせることが分かり、退院が可能になりました。自宅に戻ってからは徐々に自信を取り戻し、以前と変わらず過ごしています。

☆ポイント☆

小規模多機能型居宅介護とは、小規模な住宅型の施設へ通ったり、泊まったりするだけでなく、職員の訪問により介護や支援を受けながら、できるだけ自宅で自立した生活を送れるように支援する定額サービスです。